

R3 年度第 1 回釧路湿原エゾシカ対策検討会議 主な指摘事項と対応 (案)

＜植生保護柵の設置検討について＞		
意見	対応	備考
・ 対象地 A は、赤沼周辺の高層湿原の中でも保護する価値があるのではないかと。また、景観や利用者の立入状況、資材搬入等の観点から考えても設置しやすいのではないかと (高嶋委員)。	赤沼 (対象地 A) における植生保護柵の設計を実施中です。今後、できるだけ早期の設置へ向けた関係機関との調整等を行います。	
・ エゾシカ影響が強いにも関わらず捕獲が困難な場所であれば、緊急的な保護対策は今後必要。景観上の配慮について、敢えて見せることでエゾシカ対策に関する啓蒙活動にも繋がるのでは (稲富委員)。	これまでと同様に、保全上重要かつ脆弱な植生において、エゾシカによる深刻な影響が生じ、捕獲対策が困難な場合には植生保護柵の設置を検討・実施していきます。	
・ 対象地 B の温根内木道沿いへの柵設置についても、利用者に事業説明をしながら植生を保護する価値があると思う (宇野委員)。	また、検討にあたっては、公園利用者、景観、希少種等への影響を考慮し、VC 等での情報発信に努めます。	
・ 植生保護柵の設置にあたっては、説明看板等も必要。温根内 VC 等で事業全体の啓蒙的な情報発信にも取り組んでほしい (小林委員)。	また、以上の方針については、次期実施計画にも反映させます。	
＜広域的な影響評価について＞		
・ 広域的な影響評価の指標にシカ道を使うのは難しいのでは。シカ道の季節的な利用状況やそれによってシカ道自体がどう変化するか等の把握が必要。AI によるシカ道の自動判別技術は進歩しているが、自動判別のための教師データ (例題と答え) が必要 (金子委員)。	広域的な影響評価に係る調査手法やその解析手法等については引き続き検討が必要な課題として、次期実施計画にもその旨を反映させます。	
・ AI の教師データは、現地調査に入らなくても空中写真から判読して作ることも可能ではないかと (中村委員)。		
・ 撮影方法 (衛星写真と航空写真) を混在させた比較解析について、同じ解像度 (ドローン写真の解像度を衛星写真程度まで落とす) で評価するしかない。違う解像度では評価しない方が良い (稲富委員)。		
・ 広域的な解析 (シカ道等) と定点のモニタリング調査 (植生調査等) をどうやって結び付けて評価するかが重要ではないかと (金子委員)。		

＜数値目標の設定に向けた検討について＞		
案①1980年代注目種の出現・増加／案②植生指標種の草丈の回復／案③シカ道又は裸地化面積の減少／案④植生保護の対策面積		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 【案②】 選定した植生指標種の BMI や食痕率で見えていくのは妥当だと思うが、広域的に評価するとなると（占有面積が広い）低層湿原をそれだけで適切に評価できるかはわからない（高嶋先生）。 	<p>ご指摘を踏まえ、第2期計画期間は案②の考え方を中心にモニタリングと評価を行うこととします。</p> <p>また、案①及び③については、長期的な事業目標に関する内容として、引き続き継続検討していきます。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 【案②・③】 定量評価できる案②や広域的な影響評価である案③で評価できるのでは。ただし（案②は）柵の無い場所では評価が難しいので、広域的な影響は食痕等で見えていくのがよい。（案③は）個体数が減少してもシカ道が残存すると評価が難しい（中村委員）。 		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 【案③】 植生が戻らないエンドポイントである裸地が、シカの増加とともに増えている可能性がある。ある程度数値化して、裸地化面積を増やさないという目標を設定できるのではないかと（宇野座長）。 		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 【案③】 裸地化面積やシカ道は重要な指標になりうると考える。シカ密度が減ってもシカ道や裸地は減らないことが予想されるが、ドローン写真や航空写真を使って、キラコタン地区の保護柵で植生回復状況と併せてシカ道の変化も評価できるのでは。（稲富委員）。 		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 【全体】 案①や案③は事業の最終目標なので、第2期計画期間の目標として、案②のような目標（例：食痕率、BMI）を立てるべき（宇野座長、稲富委員）。 		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 【全体】 暫定的に目標を決めて上手く評価できなければ目標設定を変えていく、順応的な考え方でよいのでは（稲富委員・高嶋委員）。 		
＜エゾシカの生息状況に着目した目標設定について＞		
<ul style="list-style-type: none"> ・ シカの個体数をどういう形で管理するかは課題（中村委員）。 	<p>ご指摘を踏まえ、第2期実施計画において、管理ユニットを設定し、ユニットごとに対策方針や目標を設定します。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ シカが増加している段階のため、定性的な目標になるかもしれないが、まずは増加を食い止めるという目標はどうか（稲富委員）。 		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な密度目標や捕獲目標は立てられない状況だが、管理目標を 		

<p>定めて植生回復も含めた、管理に適したユニットを作っていくことが重要（宇野座長）。</p>		
<ul style="list-style-type: none"> 管理ユニットの線引きについて、ベースは道路などのアクセス性ではないか。一方で、アクセスが困難で捕獲が出来ないユニットも設定し、全体評価を行うことで捕獲効果も見えるのでは（稲富委員）。 		
<ul style="list-style-type: none"> 管理ユニットを設定する際に、行政界をまたいでしまうと管理し難くなる面がある（宇野委員）。 		
<p><次期計画の記載項目（形式的な点）について></p>		
<ul style="list-style-type: none"> （実施計画第4章）4-2 エゾシカの生息状況に、シカ道の延長距離解析が含まれているが、頭数を把握する目的ではなく、影響を見るための指標となるので、4-1 植生の広域的な評価としての記載に加えるのが適当（稲富委員）。 	<p>ご指摘の点も踏まえ、全面的に記載の内容や構成を見直します。</p>	